

## 房南地区説明会 協議録

日 時	令和4年7月3日（日） 14:00～15:45
場 所	房南学園 体育館
出席者	出山教育長・岡田教育部長・今井教育総務課長・庄司教育推進室長・ 藤本同副課長・小柴副主査（司会）
参加者	10人（保護者30% 地域住民70%）
記 者	なし（-）

### 【 概 要 】

- 教育長説明 5分
- 教育部長 3分
- 課長説明 45分
- 前日までの質疑応答の紹介 15分
- 質疑応答 20分（4名）

#### （学校再編全体の方向性に対する意見）

- 特になし

#### （地区での組織立て方法に関する意見）

- 特になし

### 【 個別議事録 】

#### （参加者A）

- ・ なぜ、館山市の総人口が減少しているのか？

#### （藤本副課長）

- ・ 館山市に限らず日本全体で人口が減少しています。その理由として、日本では婚外子、婚姻をしていない男女間に生まれた子供ですが、婚外子は生まれてくる子供の2%と言われており、大多数の方が結婚をして子供を設けています。しかしながら、その結婚に関して婚姻率が減少しています。

なぜ、若い世代が結婚をしないのか、国の意識調査でもあるように、男女を問わず、結婚に対する社会一般の考え方が変化しており、一人の方が良いとの考えもあり自治体レベルで少子化の問題を解決するには、非常に難しい状況にあります。

日本全国で昨年度生まれた子供の数は82万人と言われており、これが続くと人生80年と仮定すると82万人×80年で日本の総人口が6,000万人台になってしまう計算になり、館山市に限らず全国的な状況であると認識して頂ければと思います。

#### （参加者A）

- ・ 若い世代が地元に残るような職場づくりなどの対策は？

#### （藤本副課長）

- ・ 市として、市内への進出企業に対して、固定資産税相当の補助を出すなどの誘致施策や、現在の社会情勢を考慮し、首都圏企業が当市にリモートワーク施設を整備する場合など

への補助制度を設け、それら社会ニーズに合わせ、特化した施策を打ち出している状況です。

- ・ しかしながら、先程説明したとおり、それらの施策は過疎化に悩む全国の自治体でも類似した取組を行っており、人を呼び込む施策が過熱している状況です。それらの財源も市民の皆さまの負担により実施しなければいけないため、今、館山市に住んでいる方々への行政サービスとの均衡や見極めも重要なことだと考えています。

(参加者B)

- ・ 館山だけでなく、南房総市も鴨川市も同様であり、館山市だけでは解決できない問題であり市町村合併などの将来ビジョンはどうなっているのか？

(岡田部長)

- ・ 今のところ市町村合併の話はありません。よって、今の館山市の枠組みの中で考えていかなければならない課題と認識しています。

(教育長)

- ・ 市町村合併も全国の自治体で人口減少が顕著化していくなか、今後どのような方向に向かうのか今の時点では分かりませんが、様々な仮定の話で物事を進めるより、今の現実、近い将来予測を踏まえ考え、子供達にベターな方策は何かを考えていかなければならないですし、現実の課題点について、このような説明会を行っていることをご理解いただきたい。

(参加者B)

- ・ 教員の質の向上、学校統合した場合、子供の敏感なサインに気が付けるような教員を育成するためには？

(教育長)

- ・ 学校は、学力も部活動も一つの要素ではあるが、一番は子供達が人間として成長する場所であると考えています。そのためには、子供を支える教員の資質向上は重要なことであり、例えば市では、学校の垣根を外した独自の研修会を実施し、教員同士での失敗談や対応方法など、様々な情報を交換できる場を設定し、教員自身の指導力や人間力をつけるための取組を行っています。
- ・ また、市独自の取組として学校を跨いだフリーでの立場でのコーディネーターを配置し、各学校で取り入れている良い面を他の学校へ情報提供すること、各先生方の授業時の表情など、細かい部分での指導を含め実施しているところです。

(参加者C)

- ・ 房南小学校の低学年の下校時において、スクールバスに空きがあるので、スクールバス登校以外の子供もスクールバスに乗せてあげれば良いのでは？

(藤本副課長)

- ・ 市の規則により、学校から直線距離で2 km以上の大字地区といった一定の基準を設け、スクールバスの対象地域を定めています。空いているから良いといった判断ではなく、行政として一定の基準（距離）により決定しているものであり、房南小学校だけ認めた場合、他の地区との公平性の問題もあるので、良いとは言えないことです。

(参加者A)

- ・ 幼稚園・こども園・保育園といった施設のあり方も含めて検討した方が良いのでは

(藤本副課長)

- ・ 先ほど説明した通り、小学校に隣接する幼稚園・こども園に関しても合わせて検討を行っていきます。

(参加者D)

- ・ 神戸地区では、毎年コミュニティの一環として球技大会を実施しているが、同じ房南小学校に通っているので富崎地区の子供達も一緒に参加した方が良いのでは。
- ・ コミュニティなどでの集まりの際にも、このような市の取組を説明して欲しい。

(藤本副課長)

- ・ 確かにそのような考えもあると思います。それぞれの地域で子供たちにとって何が最善なのかといった視点でコミュニティの醸成を図って頂ければと思います。
- ・ 今回の周知に関しては、今小中学校に通わせている全ての保護者の方々、幼稚園・保育園などの将来学校に通わせる方々に直接文書を配布したこと、市の広報紙では特集号を組み、各地域の町内会連合協議会の人達にも説明会の案内を出すなどの情報発信をしてきたところです。

また、再度コミュニティなどから説明して欲しいとの依頼があれば、お伺いして説明することも可能ですので、ご相談いただければと思います。